

## 今日のシライ中

### 本の翼

白井中学校図書室から VOL.37

記録的な寒波が日本列島を襲っている今年の冬。そんな時だからこそ、心が温まる言葉が書かれた本を紹介したいと思います。いずれも、どこから読み始めても、ぱっと開けたページを読んでも大丈夫。ぜひ、手に取ってみてください。

#### 『益川博士の つぶやきカフェ』 益川 敏英

益川 敏英博士…この名前にピンとくる人、いますか？  
2008年のノーベル物理学賞を受賞した先生です。えー、そんな偉い先生の、しかも、物理だなんて、難しいに決まってる。

と思っているそこのあなた！そんなことはありません。そもそも、益川先生は、一風変わった先生で、例えば、外国語ができなさ過ぎて、大学院への進学で審議の対象となるほどでした。に英語が苦手で、ノーベル賞の授賞式でも通訳がつく異例の形でのスピーチを行っています。

急に親近感が湧きましたねえ。得意分野を伸ばして輝く道もあるのですね。さて、中からいくつか紹介しましょう。「目標は間違っていたってかまわない。予測はたいがい外れるものです。」（最初はどんなに難しいと思われるものでも、とにかく目標を設定して…しばらくやってみて、どうもこの目標は間違っていたと思ったら変えればいい。）「僕は、理科や数学が得意なんだと錯覚した。」

（僕は自分が理科や数学が得意なんだと思い込んでしまいました。でも、得意だと錯覚するとなんとなく自分でも勉強したりして、ますます錯覚は強化されていく。）「本当におもしろいことは、その先にある。」（教科書に書いてあること、それはいわば基礎体力の養成過程です。でも、本当におもしろいことは、その先にある。）「やっぱり英語は話せたほうがいい。」（僕は本当に英語が話せない。中学生のときに苦手になったのをずっとそのままにしてきたのですが…私のようにならないように、やっぱり英語は勉強しておいたほうがいいですよ。）…なかなかユーモアたっぷり、おちゃめな先生の言葉がたくさん載っています。

#### 『マザー・テレサ 愛の言葉』 いもと ようこ絵

マザー・テレサ。ご存じですよ。そして、その言葉に添えられた、いもと ようこさんの挿絵も本当に心温まるものです。絵を見ているだけでも癒されます。その中から、いくつか紹介してみましょう。「愛を与え 愛を受けることを知らない人は 貧しい人のなかでも もっとも貧しい人です。」「ごうまんで ぶっきらぼうで 利己的になるのは いともたやすいことです。でもわたしたちは もっとすばらしいことのために つくられているのです。」「まず知りあうこと 知りあえば お互いに愛しあうようになるでしょう。互いに愛しあえば 支えあうようになるでしょう。もしほんとうに愛したいと願うならゆるすことを知らなければなりません。」「わたしたちのすることは 大海の一滴の水にすぎないかもしれませんが。でも、その一滴の水があつまって 大海となるのです。」

私たち一人一人の力は小さく、ときに無力感にさいなまれることもあるかもしれませんが。でも、その小さな一滴が、きっとこれからの世の中を変えていくのでしょうか！そう信じていいのだと、背中を押してくれる、そんな一言です。

